

団体名		<b>みどりの会（長野県辰野町）</b>	
団体の概要	活動開始年	西暦 1994年 4月 活動開始 西暦 2000年 4月 特定非営利活動法人格取得	
	メンバー	人数	<役員数> 4名                      <事務局スタッフ数> 2名 <ボランティア数> 11名
		構成	74歳～78歳までの農業を営む老人(男性)11名
	予算規模	平成13年度概算 ・収入 ¥20,000(ボランティアセンターからの助成金) ・支出 ¥30,000(小中学生へのおやつ代、水稻苗代、樹木苗木代等)	
団体の目的		里山の自然、文化への再建(生物多様性による生態系への保全 - DNAから景観まで考えて健全なものにする - )	

#### ボランティア活動の概要

辰野町沢入山地区の約4aの土地で、生態系を活かした里山づくりのボランティア活動を行っている。具体的な活動内容は、以下の通りである。里山公園の土地は生産森林組合の所有であり、利用させてもらっている。

- クヌギ、コナラ、ナラ、クリなどの雑木林をつくり、樹下にスプリングエフェメラを育てる
- 小川をつくり、谷津田を起こして、棚田式景観を整える
- 遊歩道をつくり、その道端に野の花畑、秋の七草園、薬草園をつくる
- ゴムシ、山ブドウ、アケビ、キイチゴなどの藪をつくる
- サクラの木やモミジの木を植え、コブシなど木の花の美しい林づくりをする
- ソバ畑、クロハヤなどが住める池、湿地づくりをする

最近では、里山づくり活動に、地域子ども達が体験学習として参加しており、学校との協力関係づくりが行われている。みどりの会のメンバーの高齢者と地域子ども達との異世代交流を通じて、新しい里山づくりのヒントを発見するなど、ボランティア活動がより活性化している。

#### 組織運営の概要

みどりの会の組織体制は、会長、事務局（1名）、メンバーという構成となっている。会長の任期は3年と決められており、任期が切れるたびに、新年会でメンバー全員が話し合っで決めている。

また、新年会では、その年の1年間の活動計画についてアイデアを出し合い、全員で

話し合って計画を決めている。

活動メンバーの募集には収穫祭を活用している。森林組合の職員などにも来てもらい、ボランティア活動の楽しさを伝えている。



< 里山づくりの活動風景 >



< 美しく整備された用水路 >

#### 元気に活動している要因

##### < 要因1：子ども達から活動のアイデアをもらう >

みどりの会では、小学校の体験学習の場となるなど、地元の子供達に活動に参加してもらっている。体験学習の実施にあたっては、事前に学校に出向いて里山での活動について伝えたり、体験実施後に子ども達とやりとりをしたりして、交流を深めている。この交流のなかから、新しい里山づくりの活動のヒントを得ている。

##### < 要因2：里山についての知識を深め、活動への関心を継続させる >

活動メンバーは長年農業に従事してきた人たちであり、個々人が里山や野の仕事について技術をもっている。その自慢の腕を活動に活かすとともに、「今、なぜ里山づくりが大切なのか」について、生態学および郷土史の観点からの学びを続けている。

##### < 要因3：楽しく活動する >

メンバーの里山を大切にすることを大切にしながら、みんなが楽しく、仲良く活動できるように心がけている。慰労会を開いて、お互いにねぎらい合い、大いに話をして良い関係づくりをしている。

##### < 要因4：関係者に活動への理解を深めてもらう >

里山づくりの土地は地元の森林組合の所有であり、ここを利用させてもらっている。森

林組合の役員や職員とは、薪ストーブのある研究センターを利用して交流を図っている。また、収穫祭に招待するなどして、みどりの会の活動への理解を深めている。

#### 今後の課題と展望

メンバーが全員高齢者であるので、今後は思うように働けなくなってくると思われる。そこで、地元の小中学生の体験学習や福祉教育活動とのつながりを考えていきたい。

里山の自然の大切さを広く訴えて、ボランティア活動に参加してくれる人をもっと増やしていきたい。

(団体事務局スタッフによるレポート、団体資料より作成)

#### <この事例のポイント>

長野県辰野町は人口2万人のまちであり、みどりの会は、その農村地域で農家の高齢の男性達が元気にボランティア活動で里山づくりを行っている事例である。どんな世代でも、工夫次第でボランティア活動ができ、それが生きがいとなって、活動メンバーがいきいきと暮らしていることを教えてくれる事例である。

ボランティア団体が元気に活動しているポイントのうち、最もメンバーに元気を与えているのは、地元子ども達との交流である。子ども達から里山づくりの新しいアイディアをもらったり、高齢のボランティア達が子ども達から素直に賞賛されたり感謝されたりすることが、メンバーのおじいちゃん達の活動の大きな原動力となっている。みどりの会では、学校の体験学習等への協力が子ども達との接点の一つとなっていることも注目に値する。

また、活動対象への理解を深めるための学習が日常的に行われていることも、メンバーの活動意欲を維持することに役立っている。生態学等の勉強を通じて里山づくりの基礎理論を知り、かつ、郷土史の観点からも理解を深めることによって、メンバー一人ひとりが、里山づくりのボランティア活動の意義を考えることにつながっていく。

さらに、11名の小規模なメンバー構成ながら、1年間の活動について新年にメンバー全員が和やかななかできちんと話し合う機会をもっていること、リーダーである会長の任期を3年に限定して全員の合意のもとに選出していることは重要である。これらの取り組みから、みどりの会の活動には計画性があり、その計画に基づいて活動の評価を行っていること、そして、組織運営が円滑に行われていることがうかがえる。

みどりの会では、メンバーが楽しく、仲良く活動することが重要視されている。上記のような工夫のうえに、信頼関係のある人間関係づくりが行われているのである。